

## め 飯のタネにはなるが富豪になれない

これからまちづくりプランナーを仕事にしようと考えている方は、まちや人との関わりに興味があったり、まちの再生や安心して暮らせるまちをつくることなどに関心があつてまちづくりプランナーを志すということだと思ふ。間違つても、まちづくりプランナーになるとお金が儲かるからという動機の方はいないだろう。まあ、バブル期はちよつと違つたかもしれないけれど。

私も仕事をするなら、まちづくりに関わる仕事以外にやりたいことのイメージは浮かばなかつた口だ。そもそも生活のために仕事をするという考えが希薄だつたように思う。今から思い返すといい歳して何を現実逃避していたのかと思うが、当時はそうだつた。組織に入って誰かに使われるというのにも消極的で、結局は自分で事務所を開くことにするのだが、一緒に事務所を立ち上げた友人も失礼ながらどこかで専門的な知識や技術を身につけてきたわけではなかつたので、無謀な船出を良くしたものだと思ふ。大学の恩師やいろいろな方が心配してくださつたので、まったく仕事が無い開店休業状態ではなかつたが、それでも経営は苦しかった。

ただ、やりたいことは誰にはばかることなく思いつきりやれた。まちづくりコンサルタントという業種というか業態はあつたが、クライアントの求めに応じて資料を集めたり、調査を行つたり、それをあるフォーマットに整理して課題を列挙するというイメージしかなく、興味がわかなかつた。素直に、時代の価値観が大きく変わる時代に、言われたことだけをこなすのではなく、まちや人に関わり、協働し、そのまちならではの価値創造を行うことにやりがいを感じていたのだと思ふ。

当然、そのような跳ね上がりにほとんどん依頼が来るわけもなく、苦しい状況は続くのだが、そのうち時代を先取りしたつもりの提案が、後から現実が追いついてきて、いつしか歯車も噛み合い回るようになってきたのは幸運だつた。私のようなまちづくりプランナーは志で飯を食うようなもので、それ自体がなりたつのは奇跡に近いかもしれないが、どこかでその志を評価する人が必ずいるものだと思ふ。ただ、絶対に富豪にはなれない。それでもやりたいと思ふ人がいて欲しい。